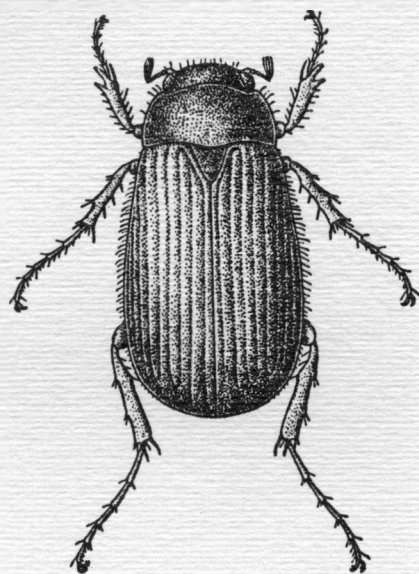


澤田玄正教授古稀記念

東京農大と昆研

(附 澤田玄正教授の略歴、業績目録、命名記載および新発見の昆虫目録)

Publication in Honour of Hiromasa SAWADA
on the Occasion of his 70th Birthday



9 Nov. 1986

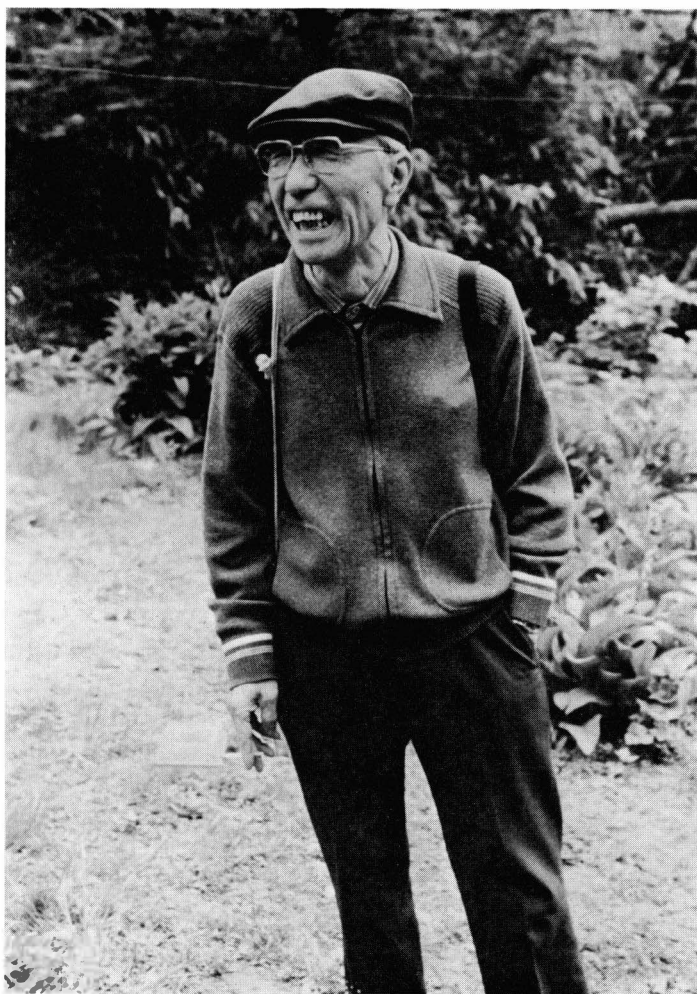
澤田玄正教授の古稀を祝う会

Group Celebrating Professor Hiromasa SAWADA's 70th Birthday

表紙図説明

Serica foobowana SAWDAA フウボピロウドコガネ

澤田玄正教授が初めて新種を記載発表（1937）した際に描かれた全形図。



澤田玄正教授（群馬県霧積温泉にて，昭和60年5月19日）

A. 東京農大と昆研

The Laboratory of Entomology in the Tokyo University of Agriculture

私が農大の助手として奉職したのが昭和15年の4月だから、その後今日まで、途中約1年間の兵役期間を除いても46年間に亘って農大に在職したことになる。その間、日本の社会情勢は幾多の紆余曲折を経て今日に到ったが、それと同時に農大昆研も多くの歴史を刻んで来た。言葉をかえれば、刻まれた一こま一こまの歴史の積み上げによって今日の昆研が存在しているということなのだろう。しかしながら、現在までその様な昆研の生い立ちや沿革について書き残されたまとまった資料は見当たらない。そこで、それらのことについて今の内に書き止めておかないと判らなくなる様な気がしたので、私の判る程度に調べて書き残すことにした。不備な点はご指摘いただきたい。

I. 東京農業大学の生い立ち

- 〔1〕明治24年3月 徳川育英会経営の「育英農科」として発足した。会長・譽主は榎本武揚、
譽長永持明德、教頭貞野肇として発足した。
- 〔2-1〕明治26年5月 育英会より独立し、私立「東京農学校」と改称。校主は榎本武揚、校長は伊庭
想太郎であった。
- 〔2-2〕明治30年1月 経営を大日本農会に移譲し、同会付属の「東京農学校」となった。当時横井時
敬は教頭で校長代理とある。
- 〔3-1〕明治34年7月 「東京高等農学校」と改称。校長は田中芳男が同35年3月就任とある。修業年
限を4年とした。
- 〔3-2〕明治36年8月 専門学校令の発布に伴い、学則を改正して専門学校令による「東京高等農学校」
となった。明治40年1月横井時敬校長に就任。
- 〔4-1〕明治44年11月 学則を改正して「東京農業大学」と改称し、大学部本科、予科、高等科を置い
た。学長は横井時敬が就任している。これは専門学校令による時代である。
- 〔4-2〕大正14年5月 財団法人東京農業大学の設立が認可され、大日本農会から経営がこの財団法人
に移り、大学令による「東京農業大学」となり、理事長・学長は横井時敬であった。学制も新し
くなり、学部の他に大学予科及び専門学校令による専門部(農学科・農芸化学科)が置かれた。
- 〔4-3〕昭和24年2月 学校教育法による学校法人東京農業大学の認可によって、同4月からいわゆる
「新制大学」として発足することとなり、翌25年4月から短期大学が開校している。旧制の大学
は昭和28年3月、専門部は同26年3月卒業生を出すまで存続していたし、また旧制の大学院は
昭和37年3月まで存続していた。新制の「大学院」は昭和28年4月から「農学研究科農学専攻
と農業経済学専攻」、同32年から「農芸化学専攻」のそれぞれ修士課程が発足し、博士課程は「農

芸化学専攻」が同 34 年から、「農学専攻」と「農業経済学専攻」が同 37 年から発足している。

Ⅱ．昆虫学及び養蚕学・動物学の先生方

〔1〕の時代は私塾のようなもので学制も定かでなく、〔2-1〕の時代は学科課程の中に「害虫」「養蚕」「理科」があるが担当者は不明である。従って、〔2-2〕以降について記録にある方々のお名前を挙げておく。プラントの所は私の調べられなかった所である。

堀 正太郎（農学士・理学士）

〔2-2〕の時代明治 31 年 1 月現在で「昆虫・植物病理」担当の講師として名が出ているが、〔3-1〕の時代には担当は「植物病理」だけになっている。

石渡 繁胤（明治 25 年東京大学農科大学農学科卒，大正 1 年農博）

〔2-2〕の時代に「養蚕・栽桑」の講師として名が出ている。当時、氏は蚕業講習所勤務であった。〔3-1〕〔3-2〕〔4-1〕の時代にはその名は出て来ないが、〔4-2〕の時代に学部及び専門部の教授（養蚕学）となっており、昭和 6 年 9 月から同 11 年 6 月まで専門部長を勤められているが、いつ退職されているのか定かでない。

小貫信太郎（明治 27 年 7 月東京帝国大学農科大学農学科卒）

〔3-1〕の時に科外講師として氏の名があり、〔3-2〕では科外ではなく「害虫論」の講師として出ている。氏は当時、農商務省農事試験場昆虫部長をしておられたので、氏に依頼したと思われる。いつまでかは定かでないが、明治 39 年病を得、同 43 年歿とあるので僅かの期間であったと思われる。

土 屋 泰（称号はなかったようだ）

〔3-1〕〔3-2〕〔4-1〕に「蚕養」「養蚕法」又は「養蚕論」の講師としてその名が出ている。

岡島 銀次（明治 33 年 7 月東京帝国大学農科大学農学科卒）

〔3-2〕発足頭初に「蚕体解剖及蚕病論」の講師としてその名がある。明治 42 年に鹿児島高等農林の新設に伴いその教授となっておられるので、その前までであったと思われる。

甘利 進一（農学士）

〔4-1〕の時代いつからいつまでかは不詳であるが、大正 6 年 3 月現在で「害虫論」の講師として出ている。

町田 次郎（明治 44 年 7 月東京帝国大学農科大学農学科卒，大正 11 年農博）

いつからいつまでかは不詳であるが、〔4-1〕の時代大正 6 年 3 月現在で「害虫論」の講師としてその名があるが、〔4-2〕発足頭初に氏の名がない。その後昭和 3 年 9 月講師となっておられるが、いつまでかは定かでない。しかし農友会昆虫部の発足時代（昭和 5 年）から暫く顧問の一人としてその名が出ているし、私も（昭和 10 年入学）動物学実験を教わったと思う。当時は東大の助教授で農大へ見えておられた。

石田 収蔵（明治38年7月東京帝国大学理科大学動物学科卒）

〔3-2〕の時代、明治38年講師として来られたらしい。〔4-1〕も頭初からのようで「動物学・植物学・植物生理学」講師（大正6年3月現在）として、〔4-2〕の時に教授となられ、大学予科の「植物及動物」、専門部の「動物学」を講じられ、大正14年5月から昭和15年1月（死去）まで図書館長でもあった。農友会昆虫部発足時から御逝去まで部長をしていただいた。

伊東 広雄（農学士）

〔4-1〕で「蚕体解剖・蚕病論」として名が出ている。

佐々木忠次郎（明治14年7月東京大学理学部生物学科卒，明治22年理博）

〔4-1〕の頭初からであろうか、大正6年3月現在で「蚕体解剖・蚕病論・養蚕法・養蚕実習」の講師としてその名が出ているが、〔4-2〕の発足頭初にはその名がない。しかし大正14年〔4-2〕祝賀会の功労者の中に「前教授」としてその名があり、昭和2年には農大の名誉教授となっておられる。昭和13年6月歿。

横山 桐郎（大正7年3月東京帝国大学農学部農学科卒，大正14年農博）

〔4-2〕発足当時学部教授としてお迎えしたようで「動物学演習」担当とある。不思議なことに発足当時の学部学科課程の中に「養蚕学」はあるが、「昆虫学」がないのは落したのだろうか（大正14年第1回の講義を聞いた者が多い）。専門部の学科課程の中には農学科・農芸化学科共に「昆虫学」と「養蚕学」の両者がある。昭和2年1月から農林省蚕業試験場の技師となられたので、農大の方は講師となられ、昭和7年8月逝去まで「昆虫学」を講じられた筈である。一方、同2年3月からマツケムシ駆除試験のため朝鮮総督府林業試験場嘱託となられ、農大の中に建物としての「昆虫研究室・同飼育室」が建てられる端緒となったわけである（詳しくは昆虫学研究室の生い立ちの項を見よ）。

高橋 奨（明治39年7月東京高等農学校選修科了，昭和9年農博）

各地試験場，学校等を歴任されたが，横浜植物検査所殺物害虫部勤務の時，〔4-1〕の時代の大正10年1月農大の講師となられ，本務の方は農商務省食糧局の所を転々とされたが，昭和10年6月逝去まで専門部の「昆虫学」を講じられた。農友会昆虫部の前身である「昆虫研究会」・「応用昆虫研究会」も氏を会長として発足したものである。

石森 直人（大正3年7月東京帝国大学農科大学農学科卒，大正14年農博）

いつからいつまでかは不詳であるが，〔4-2〕の時代に「養蚕学」の講師として来ておられたのは確かです。私も教わったと思う。

矢野 宗幹（明治42年7月東京帝国大学理科大学動物学科卒）

東大卒業から直ちに林業試験場に勤務しておられた。昭和7年8月横山桐郎先生逝去のあとを受けて，同7年11月から農大の講師となり学部の「昆虫学」を講ぜられ，昭和21年5月までとある。氏を講師として迎えてからは農友会昆虫部の顧問をしてもらっていたが，昭和15年1月部長の石田収蔵先生逝去のあと部長となってもらっていた。昭和45年12月歿。

神谷 一男（昭和3年3月東京農業大学農学部卒，昭和25年農博）

昭和4年から朝鮮総督府林業試験場嘱託として横山桐郎先生のお手伝いをし，主としてマツケムシ寄生蜂の研究をした。昭和8年上記を退職し農大の助手となり，たまたま上記研究のため建てられた「昆虫研究室」に於て研究を続けられ，昭和10年高橋奨先生逝去のあと講師となって主として専門部の講義をされた。同11年3月助教授となられ，戦後矢野宗幹先生退職の後には学部の「昆虫学」も講じられ，昭和23年教授となっておられる。〔4-3〕発足の時は教授「昆虫学」担当として氏の名があり，昭和26年愛知学芸大学教授として転出されるまで昆虫研究室の主任として，また農友会昆虫部の部長としてお世話いただいた。

成富 信敏（大正14年3月東京農業大学本科卒，昭和6年農学部卒）

本科卒と同時にその年から来られた横山桐郎教授の助手をしておられたようである。昭和6年か7年か定かでないが農大助手となっておられ，昭和10年には助教授となっておられるようであるが，いつまでかは不詳で戦時中退職された。昭和8年昆虫研究室が建てられた当時は，そこで神谷先生と同室しておられたが，昭和10年私が入学してから後に引越された。担当は「動物学実験」であったと思う。

安立 綱光（昭和3年3月東京農業大学農学部選科了）

昭和6年，暫くは上野の科学博物館動物学部長の飯塚啓先生の助手をしておられたが，昭和7年4月東京農大助手となり，図書館内にあった標本室に勤務しておられた。昭和14年正門横に動物実験室が新築され，その二階にある研究室に移られ，昭和15年4月からは専任の講師となられ，〔4-3〕発足頭初は「生物学」担当の専任講師として名が出ている。〔4-3〕の発足に当って昭和24年3月助教授となっている。昭和29年4月東洋大学教授になられてからも，昭和42年3月まで本学の非常勤講師として「生物学」を担当されていた。

八木 誠政（大正5年3月上田蚕糸専門学校卒，大正15年理博，昭和26年農博）

昭和37年3月旧制大学院が廃止され，その4月から新制の大学院の農学専攻に博士課程を設けるに当ってその前年の昭和36年1月から教授（打切）として来ていただき，翌昭和37年7月から教授となつて頂いたが，昭和39年5月から停年退職に伴い嘱託教授となられた。昭和42年2月逝去されたが，旧制の大学院の末期及び新制大学院の発足頭初にいろいろと農大昆虫研究室のため御助力いただいた。

III. 昆虫学研究室の生い立ち*

昆虫研究会

大正10年頃（〔4-1〕の時代）、当時「大学部本科」の学生であった大内義郎（大正12年卒、上海自然科学研究所生理学部勤務、戦後愛知大学勤務）が中心となって、たまたま講師として本学に来られた高橋奨先生を会長にいただいて創立され、大正11年「昆虫」と題する会誌が2回発行された。しかし大内氏の卒業と共に立ち消えとなったようである。

蟲乃会・東京蟲乃会

成富信敏・神谷一男・青木定雄（昭和3年学農卒、後に義昌と改名）の3氏の発起で、大正15年3月当時教授として来られていた横山桐郎先生を会長に発足した。発足頭初は会員18名とあるが、急速に会員を増し、3年後の昭和4年4月には会名も「東京蟲乃会」と改め、農大関係者だけでなく広く一般からも会員を募り、昭和4年8月には機関誌「蟲」創刊号を出版した。同年11月に2号を、翌昭和5年には2巻1～4号の4冊を、翌昭和6年にも3巻として4冊を発行したが、翌昭和7年には4巻1号と2号の2冊を出版した直後、会長横山博士急逝のため、この会を解散することとし、4巻3・4号を追悼号として出版し幕をとじた。

この他に「東京蟲乃会研究報告」を2冊出版しており、No.1は昭和6年4月、No.2は昭和7年6月に発行されている。事務所はずっと東京農大博物教室内とある。

この会発足の牽引者は上記の如く成富信敏氏であるし、また「蟲」1巻2号と2巻1号には編輯人としてその名がある。1巻1号にある発足当時の役員しか判らないが、会長として横山桐郎、幹事長として神谷一男の名がある。「蟲」の発行人は総て神谷一男となっている。最終号（編輯人・安立綱光）に安立先生の書いておられる所によると、最終号当時は瀧尾増夫、神谷一男、安立綱光の3氏が幹事をしていたという。ちなみに瀧尾氏は蚕業試験場で横山先生の助手をしており、神谷氏は農大にあって朝鮮総督府林業試験場の嘱託として横山先生の助手をしており、安立氏は科学博物館からこの年母校へ戻って助手をしてもらったからであろう。

応用昆虫研究会・農友会昆虫部

昭和3・4年の頃、農大ではすでに「蟲乃会」が発足しており、昭和4年4月からは「東京蟲乃会」と改められた如く、この会は横山博士を会長とする大きな会にのし上っていたが、一方高橋奨氏を会長に創られた「昆虫研究会」は大正12年以降立ち消えのようになっていた。そこで当時専門部農学科の学生であった原田豊秋（昭和5年専農卒、横浜税関を振り出しに長く食糧研究所に勤務）、高倉勇（昭和5年専農卒）の2人が中心となり、当時専門部に講師として昆虫学を教えに来ておられた高橋奨先生を会長

*（名前の後にカッコで注のない方については関係先生方の項参照）

に、昭和4年1月「応用昆虫研究会」を発足させ、学内の研究団体であった常盤松学会に加入、さらに翌昭和5年2月には農友会加入が認められ、4月24日「農友会昆虫部」の創立総会が開かれた。発足当時の役員等は定かでないが、「部報」第2号（昭和7年9月）に部長石田收藏、顧問高橋奨・町田次郎と出ている。創刊号（昭和7年6月）の新井一（昭和8年専農卒）の巻末の言を引用すると「成富・神谷氏等の先輩が有形無形なる努力をなし、土山（哲夫、昭和6年学卒）・山田（？）・菱田（清、昭和6年専農卒）諸氏の当時学生の時と力とに依り……昆虫部の誕生を見……。……爾後2ヶ年を経過し（昭和5～7年）、その間矢部（長順、昭和8年学卒）・内海（牧衛、？）・安藤（圭一、昭和7年専農卒）氏等と部長並びに顧問の献身的努力に依り……」とある。

「部報」は創刊号から3号までは謄写印刷で、何れも昭和7年に発行されているが、その後は活版印刷となり、巻号呼びに改められ、2巻1号は昭和8年2月に発行された。昭和7年8月横山先生逝去のあと、林試から矢野宗幹先生が講師となって来ておられたので顧問に加わっておられる。2巻3号までは昭和8年に発行されているが、昭和9年は3巻1号のみで、3巻2号は翌昭和10年4月に、4巻1号は昭和10年12月に、4巻2号は昭和12年4月に発行されている。しかし同年8月には再び号呼びになり「部報11号」として縦書きになり、12号は翌13年2月に発行されている。13号からは再び謄写印刷となり昭和13年10月に発行され、14号は昭和14年4月に、15号は奥付が落ちているが発行は昭和15年早々のものである。16号は昭和15年12月の発行で、石田收藏部長の追悼号のような形である。石田部長のあとは矢野先生が部長となっておられるが、少しもめたようである。部室もそれまでは昭和8年8月に建てられた「昆虫研究室」内に置かれていたが、昭和14年12月に新しく正門脇に「動物学実験室」が建てられ、それまで専門部教室の階段下におられた成富先生（助教授）と図書館標本室におられた安立先生（講師）もその2階へ移られ、矢野先生も登校された時はそちらへ見えておられたので、部室も移転した形となった。

部報は上記16号を以て中断されていたが、戦後は昭和25年になって復刊第1号が「おとしぶみ」という名で謄写印刷で同年4月に発行、2号は翌昭和26年2月に発行されている。編集は何れも林長閑君（昭和23年専農卒、昭和26年学農卒）で、この2冊を出して卒業して行かれた。戦後の部長は勿論神谷一男先生で復刊の辞も書いておられるが、この昭和26年3月に神谷先生は愛知学芸大学の教授として転出されたので、部長は澤田助教授が勤めている。このあとの「おとしぶみ」は戦前の部報の巻号を復活させて10巻1号として昭和26年11月に発行、10巻2号はとりやめ、11巻1号は昭和27年10月発行、11巻2号は昭和28年12月発行、12巻1号は昭和31年3月発行、12巻2号は昭和31年12月発行で、これが終刊となっている。これは昭和32年5月農友会の再編成によって、学術研究部が農友会からはずされ、12の部がそれぞれ大学の研究室に吸収されることとなり、ここで農友会昆虫部に終止符が打たれた。

昆虫部の廃止に伴い「おとしぶみ」も終刊を迎えたが、これに代るべきものとして「研究室ニュース」がタイブ印刷で発行され、No.1は昭和33年12月に、No.2が昭和34年5月に出ているが、その後止絶えている。

昆虫研究室・昆虫学研究室

常磐松時代の最初の建物は昭和8年8月に竣工し、わずか平家建11坪であるが、これを「昆虫研究室」と呼んだ。私の聞いた所では昭和2年から横山先生が、昭和4年からは神谷先生も朝鮮総督府林業試験場の嘱託としてマツケムシの研究をしておられたので、そこからの資金だということであった。横山先生はその竣工を見ずに亡くなられた。昭和11年、鈴木梅太郎博士寄贈の「化学研究室」が出来るまでは、常磐松校舎で研究室と名のつくのは「昆虫」だけだったのである。4年後の昭和12年9月には移転と継ぎ上げ増築で2階建となり、床面積も倍の22坪（4室）となった。

戦後農大は世田谷の元陸軍機甲整備学校跡に移転したので、昭和20年10月昆虫研究室も神谷先生他の努力で最初東北隅の一棟を占拠したが、翌昭和21年には跡地全部が農大で使えるようになり、研究室も元医務室跡へ移転をした。昭和34年であったと思うが大学院研究室という名でグランド寄りに2階建ての建物が建てられ、昆虫にも一室が与えられていたが、研究室を全部引越すには狭いので、当分後閑君だけが引越し、八木先生が来られてからは、その室を居室として貰っていた。昭和37年6月、現2号館（当時は総合研究室と称していた）の落成に伴って、同年9～10月にすべての引越しを行い現在に至っている。昆虫標本室は昭和42年4月に落成、それまで農学科標本室に入れてあった昆虫標本を移動させた。昭和42年11月、東京農業大学組織及び職制が施行され、各学科の研究室制度の確立をみて「昆虫学研究室」と称することになり、昭和8年以来親しまれて来た「昆虫研究室」に学の字を挿入することとなった。横文字の方も“Entomological Laboratory”と称していたのを統一のため“Laboratory of Entomology”と呼ぶことにした。因みに大学の横文字表示も従来“Tokyo Agricultural University”と称していたのを昭和38年から“Tokyo University of Agriculture”と呼ぶこととなった。

〔附〕 甲 虫 同 好 会

昭和12年、前年から準備を進めていた「甲虫同好会」が神谷一男・安立綱光両氏を中心に発足し、昭和12年5月、「日本の甲虫」第1巻第1号の発刊を見るに至った。山本玄（昭和12年学卒）、大林一夫（昭和11～13年本学雇）及び澤田が雑務を担当した。毎号着色図版1葉をつけることにしたが、これは関口俊雄画伯の献身的援助によるものである。本文も上質印刷紙を用いることをモットーとし美しいものであった。第2号からは奥村定一氏（トンボ研究家）の仲介で凸版印刷KKに印刷を引き受けて貰った。これは同印刷社の大きな組織の中で植字工の片手間と上質印刷紙の端切れをねらって安価上がりを目論みものである。第3巻2号の原色図は新井睦夫氏の筆になるもので、これは三輪勇四郎・中條道夫氏の「本邦産タマムシ科の新種及び稀種図説」の附図として、同氏等よりの提供によるものである。第4巻1号（終刊号）の原色図は澤田の論文「日本産ヒラタハナムグリ亜科の研究、第2報」の附図として澤田自身の描いたもので、これが昭和16年6月に発行され終刊となっている。これは印刷を上記の如く凸版印刷KKに依頼していたが、太平洋戦争の勃発に伴って同社が軍及び国の徴用の形となり、このようなもので手が廻らなくなったことが主因で、断絶したままとなった。

B. 澤田玄正教授の略歴と業績

I. 澤田玄正教授略歴

A Brief Biography of Professor Hiromasa SAWADA

大正 5 年 (1915) 4 月 30 日 奈良県宇陀郡松山町 (現大宇陀町) にて父寅三・母テルの長男として生る。名付け親は医者森下幸太郎氏 (その長男は戦前は台湾総督府中央研究所衛生部, 戦中は熱帯医学研究所に永く居られ, 戦後は大阪大学微生物病研究所所長であられ, マラリア蚊の研究などをされていた森下薫氏であり, 三男は現日本新薬 KK 社長の森下弘氏である)。

出生時, 父の一句「竜昇る玄海灘や卯月尽」(因みに大正 5 年は辰年, 卯月は 4 月, 尽は晦日)。

昭和 15 年 (1940) 3 月 22 日 町立松山尋常高等小学校尋常科, 県立宇陀中学校を経て東京農業大学農学部卒。

昭和 15 年 (1940) 4 月 10 日 東京農業大学博物実験室助手。

昭和 17 年 (1942) 3 月 31 日 東京農業大学助手。

昭和 19 年 (1944) 8 月 1 日 臨時召集。昭和 20 年 10 月 15 日復員。

昭和 22 年 (1947) 9 月 17 日 東京農業大学助教授。

昭和 32 年 (1957) 5 月 1 日 東京農業大学教授。

昭和 37 年 (1962) 3 月 27 日 農学博士 (東京農業大学旧学位令による 最終号: 180 号) (Morphological and Phylogenetical Study on the Larvae of Pleurostict Lamellicornia in Japan)。

昭和 42 年 (1967) 4 月 1 日 東京農業大学大学院指導教授。

〔大学での主な役職〕

昭和 31 年 (1956) 1 月 12 日 }
昭和 32 年 (1957) 1 月 8 日 } 学務課長 (昭和 31 年 10 月 1 日よりは職制改革に伴い教務課長)。

昭和 46 年 (1971) 5 月 6 日 }
昭和 47 年 (1972) 1 月 9 日 } 農学部農学科長。

昭和46年(1971)12月9日 }
昭和47年(1972)9月30日 } 学務部長。

〔学校法人 東京農業大学での役職〕

昭和26年(1951)5月 }
昭和32年(1957)7月 } (2期) 評議員(学校法人の発足による初めての選挙により当選した)。

昭和34年(1959)9月 }
昭和44年(1969)7月 } (3期半) 評議員(この間昭和36年11月～昭和41年7月迄評議員会議長)。

昭和41年(1966)7月 }
昭和44年(1969)7月 } (1期) 理事。

昭和47年(1972)7月 }
昭和50年(1975)7月 } (1期) 評議員(この間評議員会議長)。

〔農友会関係〕

昭和26年(1951)9月10日 }
昭和45年(1970)3月31日 } 農友会空手部長。

昭和41年(1966)2月 }
昭和47年(1972)3月 } 農友会野球部長。

昭和42年(1967) }
昭和45年(1970)9月31日 } 農友会体育団体連合会長。

〔学会関係での主な役員〕

昭和24年(1949) }
昭和27年(1952) } 日本昆虫学会幹事。

昭和40年(1965) }
昭和49年(1974) } 日本昆虫学会評議員。

昭和52年(1977) }
昭和53年(1978) } 同上。

昭和44年(1969) }
昭和48年(1973) } 日本食品衛生学会編集委員。

II. 澤田玄正教授著作目録

A List of Publications by Professor Hiromasa SAWADA

1933 (昭和8)~1976 (昭和51)

1933 (昭和8)

- 大和でクロコノマテフを捕る. 昆虫界, 1: 660.
- キョウトアオハナムグリの新産地. 昆虫界, 1: 660.
- コガネムシ科の二三について. 昆虫界, 1: 660.
- モイハウスバカゲロウ大台ヶ原山に産す・他. 昆虫界, 1: 660.

1937 (昭和12)

- 日本産ビロウドコガネ属に就て. 日本の甲虫, 1: 8-36, 5 pls.
- 十七ホシハナムグリの分布. 日本の甲虫, 1: 33.
- カバイロアシナガコガネ本州に産す. 日本の甲虫, 1: 33.
- 日本産シマビロウドコガネ属に就て. 日本の甲虫, 1: 97-102.
- カミヤビロウドコガネ四国に産す. 日本の甲虫, 1: 102.
- サツマコフキコガネに就て. 日本の甲虫, 1: 102.

1938 (昭和13)

- 日本産チャイロコガネ属に就て. 日本の甲虫, 2: 5-26, 3 pls.
- 日本産アシナガコガネ亜科. 日本の甲虫, 2: 33-48, 2 pls.
- 「日本産ビロウドコガネ属に就て」(日本の甲虫, Vol. 1, No. 1, pp. 8~36, 1937)の正誤表. 日本の甲虫, 2: 48.
- Three new *Sericania*-species from Japan (Scarabaeidae). *Nippon no Kôtyû*, 2: 69-72.
- Description of a new genus and species of the Lamellicorn Coleoptera from Shikoku, Japan. *Nippon no Kôtyû*, 2: 73-74, 1 pl.
- Phyllopertha* 属数種の色彩の変化. 日本の甲虫, 2: 76-78.
- カブトムシの学名. 日本の甲虫, 2: 80.
- 日本産ビロウドコガネ類2種. 日本の甲虫, 2: 87-90.
- アカビロウドコガネ属の属名及び数種ビロウドコガネの種名. 日本の甲虫, 2: 101-102.
- Serica orientalis* MOTSCHULSKY 樺太に産す. 日本の甲虫, 2: 103.
- Autoserica okamotoi* (MURAYAMA) 青島に産す. 日本の甲虫, 2: 103.
- Adoretus tenuimaculatus* WATERHOUSE 台湾に産す. 日本の甲虫, 2: 103.

—台湾産 *Hoplia* の或種に就て. 日本の甲虫, 2: 104.

—ハナムグリ類の脱脂. 日本の甲虫. 2: 105.

—「日本産チャイロコガネ属に就て」(日本の甲虫, Vol. 2, No. 1, 1938, pp. 5~26) の正誤表. 日本の甲虫, 2: 106.

—「日本産アシナゴコガネ亜科」(日本の甲虫, Vol. 2, No. 1, 1938, pp. 33~48) の正誤表. 日本の甲虫, 2: 106.

1939 (昭和14)

—日本産ピロウドコガネ亜科の分布. 瑞穂の科学, 1: 12-17.

—The Valginae of the Japanese Empire (Coleoptera, Scarabaeidae). *Trans. Kansai ent. Soc.*, (8): 81-91, 1 pl.

—Three new Lamellicorn beetles from Formosa. *Nippon no Kôtyû*, 3: 41-46, 1 pl.

—*Apogonia amida* LEWIS の分布. 日本の甲虫, 3: 46.

—Some Lamellicorn beetles of the Subfamily Sericinae. *Nippon no Kôtyû*, 3: 48-51.

—寺西先輩を悼む. 東京農業大学農友会昆虫部部報, (14): 6-8.

1940 (昭和15)

—A revision of the Melolonthine beetles of the Genus *Apogonia* in the Japanese Empire. *Jour. Agri. Sci. Tokyo Nogyo Daigaku*, 1: 267-280, 1 pl.

—キンスジコガネの属名に就て. 東京農業大学農友会昆虫部部報, (15): 7-12.

1941 (昭和16)

—日本産ヒラタハナムグリ亜科の研究 (第2報). 日本の甲虫, 4: 1-14, 1 pl.

—A revision of the Ruteline beetles of the Genus *Phyllopertha* in the Japanese Empire. *Nippon no Kôtyû*, 4: 42-58, 4 pls.

—ヒメコガネとハンノキコガネに就いて (日本昆虫学会第4回大会講演要旨). 昆虫, 14: 227-229.

1942 (昭和17)

—Two new Ruteline beetles from Japan. *Trans. Kansai ent. Soc.*, 12(1): 38-40.

—ドウガネとその近似種. 関西昆虫学会会報, 12(1): 41-48, 1 pl.

—Two new Cetonine beetles of the Genus *Glycyphana*. *Zool. Mag.*, 54: 240-242.

1943 (昭和18)

—Three new Ruteline Beetles from Formosa. *Trans. Kansai ent. Soc.*, 13(2): 1-3.

—ヒメトラハナムグリ *Trichius succinctus* (PALLAS) に就て. 関西昆虫学会会報, 13(2): 4-6.

1944 (昭和19)

—A new *Valgus*-species from Korea. *Trans. Kansai ent. Soc.*, 14(1): 12-13.

— 2 種の *Anomal* *a* 属金亀子に就いて. 関西昆虫学会会報, **14**(1): 14-19.

1947 (昭和 22)

— コガネムシの越冬. 自然の友 (名和昆虫研究所), **2**: 19-20.

1948 (昭和 23)

— コガネムシ類幼虫の標本の作り方. 冬虫夏草 (松下総合昆虫研究所), **1**: 14.

1949 (昭和 24)

— 早春に見かけるコガネムシの幼虫, 蛹, 成虫はこうして冬を越して来る. 新昆虫, **2**(3): 5-8.

— ハナムグリ亜科及トラハナムグリ亜科に属する数種の台湾産金亀子に就て. 関西昆虫学会会報, **14**(2): 70-72.

— 日本産クロコガネ属甲虫の再検討 (日本昆虫学会第 8 回大会講演要旨). 昆虫, **17**: 72-74.

1950 (昭和 25)

— 琉球列島のコガネムシ類. 農学集報, **2**: 257-317, 4 pls.

— カバイロピロウドコガネに就いて. 関西昆虫学会会報, **15**(1): 18-22.

— *Mimel* *a* 属とこれに属する日本産のコガネムシに就いて (日本昆虫学会第 9 回大会講演要旨). 昆虫, **18**: 42-43.

— 畑地に於ける土壌昆虫相の一例. 応用昆虫, **6**: 99.

— 日本産クロコガネ属の幼虫に就いて (日本昆虫学会第 10 回大会講演要旨). 昆虫, **18**: 147-148.

— 日本・琉球・台湾産のコガネムシ類に就いての若干の知見. 虫報, (2): 1-12, 1 pl.

1951 (昭和 26)

— 偶感. おとしぶみ (東京農業大学農友会昆虫部部報), **10**(1): 24-26.

1952 (昭和 27)

— コガネムシの翅鞘. おとしぶみ, **11**(1): 24-27.

— 採集家に望む. 幼虫 (中部昆虫同好会), **1**(3): 5-6.

— 大台ヶ原山. 幼虫, **1**(3): 35.

1953 (昭和 28)

— 数種防除剤による スギ播種床に於けるコガネムシ幼虫防除試験 (予報). 日本応用昆虫学会・応用動物学会合同大会 (昭和 28 年度) 講演要旨: 21-22.

— ヒメコガネとドウガネの幼虫に於ける種及び 齢間の簡単な識別法. 日本昆虫学会第 13 回大会案内及講演要旨: 10.

— コガネムシ類覚え書き (1). おとしぶみ, **11**(2): 3-7.

— コヒゲシマピロウドコガネに就いて. げんせい, **2**(1/2): 27-28.

1954 (昭和 29)

—上咽頭の構造による日本産コガネムシ類幼虫の分類 (日本昆虫学会第 11 回大会講演要旨). 昆虫, 20: 89-90.

—*Sericania mimica* LEWIS とその近似種に就いて. 日本昆虫学会第 14 回大会講演要旨: 3.

—昆虫採集・標本作成の教室. 39 pp. 大正洋行.

1955 (昭和 30)

—On some Lamellicorn beetles of the Genus *Sericania*, with a list of the Japanese *Sericania*.
Jour. Agri. Sci. Tokyo Nogyo Daigaku, 2: 563-583. 2 pls.

—昆虫採集をはじめる人に (一). 月刊新教材, 1(1): 22-23.

—小中学生も簡単にできるやさしい昆虫採集 (二). 月刊新教材, 1(2): 20-21.

—夏期校外指導のための効果的な昆虫採集. 月刊新教材, 1(3): 20-21.

1956 (昭和 31)

—日本産 *Sericania* 属に追加すべき種. 日本昆虫学会第 16 回大会講演要旨: 3.

—巻頭言. おとしぶみ, 12(1): 1.

—チャイロコガネという名のこがねむし. おとしぶみ, 12(2): 1-6.

—農大構内でクマゼミが啼く. おとしぶみ, 12(2): 6.

1957 (昭和 32)

—北部伊豆諸島の昆虫類に就いての若干の知見. 日本昆虫学会創立 40 周年記念大会プログラム (第 17 回大会): 11. (岸田久吉・白井邦彦・川合市郎共同発表.)

1958 (昭和 33)

—日本産トラハナムグリ類 4 種の幼虫について. 日本昆虫学会第 18 回大会一般講演・シンポジウム要旨: 1.

—発刊に当たって. 研究室ニュース (東京農業大学昆虫研究室), (1): 1-2.

—昆虫採集・標本作成の教室 (改訂版). 35 pp. 大正洋行.

1959 (昭和 34)

—日本産コフキコガネ亜科の幼虫. 日本昆虫学会第 19 回大会一般講演・特別講演要旨: 10-11.

—八丈小島の昆虫相. 農学集報, 5: 47-62, 2 pls. (渡辺泰明と共著.)

—研究室の現況. 研究室ニュース, (2): 1-2.

—農薬の使用と害虫の勢力消長. 農大新聞 (農大新聞部), (346): 3.

1960 (昭和 35)

—ヒメコガネ翅鞘点刻の地理的変異. 日本昆虫学会第 20 回大会一般講演・特別講演要旨: 10.

—九州に産する日本未記録の珍しいコガネムシに就て. 農学集報, 5: 1-4, 3 pls.

—A new Lamellicorn beetle of the Genus *Sericania*. *Jour. Agri. Sci. Tokyo Nogyo Daigaku*, 6: 9-12, 1 pl.

—Description of a new species of Lucanid-beetles from Mikura Island in the Izu Islands, Japan. *Jour. Agri. Sci. Tokyo Nogyo Daigaku*, 6: 99-102. (With Y. WATANABE.)

—ヒメコガネ幼虫の齢別棲息密度の消長に及ぼす防除剤処理の影響. 日本応用動物昆虫学会大会(昭和35年度)講演要旨: 12. (小山良之助と共同発表.)

1961 (昭和36)

—地底の世界. 実験治療, (348): 23.

—オオチャイロハナムグリ *Osmoderma* の分類学的な位置について. 日本昆虫学会第21回大会講演要旨: 12.

1962 (昭和37)

—昆虫の皮膚とキチン. 実験治療, (368): 25.

1963 (昭和38)

—コガネムシ類幼虫の大腮切歯部の比較形態学的考察. 日本昆虫学会第23回大会講演要旨: 9.

—佐原地域動物調査報告. 佐原地域文化財総合調査報告, pp. 19-54, 1 pl. (岸田久吉・白井邦彦・渡辺泰明と共著.)

—第XV回国際動物学会議(ロンドン, 1958)で採択された国際動物命名規約. 90 pp. 自刊. (澤田玄正訳.)

1964 (昭和39)

—コガネムシ幼虫に対するアルドリノ粒剤の殺虫効果. 日本林学会誌, 46: 20-29. (後閑暢夫と共著.)

—ようちゅう. ポケット採集図鑑 5 (澤田玄正監修: 執筆 林のどか, 指導 田中和夫). 144 pp. 学習研究社.

1965 (昭和40)

—植物の大敵アメリカシロヒトリ. 17 pp., 31 pls. 首都緑化促進委員会.

—Phylogenetic consideration of the *Valgus* group of beetles, based on the larval characters. *Proc. XII Int. Congr. Ent. London*, 1964, p. 78.

—コガネムシ類幼虫の脚の環節について. 日本昆虫学会第25回大会講演要旨: 5.

1966 (昭和41)

—コガネムシ類幼虫気門の環節による大きさおよび形状の相違. 日本昆虫学会第26回大会講演要旨: 18-19.

—北多摩北部地域の動物. 東京都文化財調査報告書, (18): 249-283. (岸田久吉・白井邦彦・渡辺泰明と共著.)

- 思い出すままに、神谷一男先生退職記念集, pp. 7-9.
- 表紙のことば (モンシロチョウの卵). すずむ農業 (東洋高圧工業), (6): 表紙裏.
- 表紙のことば (ゴキブリの卵鞘). すずむ農業, (8/9): 表紙裏.
- 表紙のことば (トビナナフシの卵鞘). すずむ農業, (11): 表紙裏.

1967 (昭和 42)

- 圃場にみられるコガネムシ類幼虫の図解検索: 植物防疫基礎講座 害虫の見分け方 10. 植物防疫, 21: 293-296, 5 pls.
- 創立 50 周年記念大会を終えて. 昆虫と自然, 2(11): 11.

1968 (昭和 43)

- ファーブルの遺跡を訪ねて. モンキー, 11(5): 14-16.

1969 (昭和 44)

- 御蔵島の昆虫相. 農学集報, 14: 1-42, 6 pls. (渡辺泰明と共著.)

1970 (昭和 45)

- コガネムシ類幼虫の体環節における短刺毛横帯の異同と分布. 日本昆虫学会第 30 回大会講演要旨: 12-13.

1975 (昭和 50)

- 育粉製造工場内外の昆虫類. 食品衛生学雑誌, 第 16 巻別冊 p. 16-25.
- 農大初の卒論優秀賞か? 農大学報, (55): 33-34.

1976 (昭和 51)

- *Serica sawadai* (NOMURA, 1959) について. 甲虫ニュース, (34): 5.
- An ultrastructural study of capsule formation by *Bombyx* hemocytes. *Annot. zool. Japon.*, 49: 177-188. (With Shigeru SATO & Hiromu AKAI.)
- こん虫. 小学生ポケット図鑑 1 (黒沢良彦, 澤田玄正監修: 執筆 林のどか, 指導 田中和夫). 200 pp. 学習研究社.

なお, 上記著作以外に 東京農業大学での「昆虫学」の講義のために使われた自刊のテキストが下記の通り発刊された。

1951	昆虫学講義 第一編.	83 pp.	謄写印刷	(成霞堂)
1952	” ”	106 pp.	”	(”)

1954	昆虫学 上巻	124 pp.	〃	(自 刊)
〃	下巻	207 pp.	〃	(〃)
1957	昆虫学 (I)	88 pp.	タイプ印刷	(成霞堂)
〃	(II)	88 pp.	〃	(〃
〃	昆虫学 (III)	72 pp.	〃	(〃)
1958	〃	263 pp.	〃	(農大生協)
1959	〃	262 pp.	〃	(〃
1960	〃	262 pp.	〃	(〃
1961	〃	267 pp.	〃	(〃
1962	〃	267 pp.	〃	(〃
1967	〃	281 pp.	〃	(〃

なお、1975 年頃から大改訂を意図し準備をしたが、1980 年頃からは一部つつをタイプ・コピーをし、学生に配布、研究室のゼミに使用し現在に至っている。

III. 澤田玄正教授によって命名記載および新発見された昆虫の目録*

List of Insect Taxa Described or Newly Recorded by Professor H. SAWADA

(1) 澤田玄正教授によって創設された属

New Genera Established by Professor H. SAWADA

1. *Ohkubous* SAWADA ヨツバコガネ属

SAWADA, 1938, Nippon no Kôchû, **2**, p. 73. (Type species: *Ohkubous quadridentatus* SAWADA)

2. *Nipponovalgus* SAWADA ヒラタハナムグリ属

SAWADA, 1941, *ibid.*, **4**, pp. 3, 4. (Type species: *Valgus angusticollis* WATERHOUSE)

(2) 澤田玄正教授によって命名記載された新種・新亜種

New Species and new Subspecies Described by Professor H. SAWADA

FAMILY LUCANIDAE クワガタムシ科

1. *Lucanus gamunus* SAWADA et Y. WATANABE ミクラミヤマクワガタ

SAWADA & WATANABE, 1960, Jour. Agri. Sci. Tokyo Nogyo Daigaku, **6**, p. 99, fig. (Mikura-jima, Izu Islands).

FAMILY SCARABEAIDAE コガネムシ科

2. *Hoplia hakonensis* SAWADA ハコネアシナゴカガネ

SAWADA, 1938, Nippon no Kôchû, **2**, p. 7, pl. 6, fig. 10 (as var. of *H. moerens* WATERHOUSE) (Sengokuhara, Hakone).

3. *Ectinohoplia yoi* SAWADA アサギアシナゴカガネ

SAWADA 1939, *ibid.*, **3**, p. 41, pl. 6, fig. a, text-fig. 2 (Bandai near Musha, Formosa).

4. *Maladera kamiyai* (SAWADA) カミヤビロウドコガネ

SAWADA, 1937, *ibid.*, **1**, p. 27, pl. 4, figs. 3a-b, pl. 6, figs. 3-10 (*Serica*) (Mt. Hôki-daisen).

5. *Serica boops* WATERHOUSE ヒゲナガビロウドコガネ

var. *unicolor* SAWADA, 1937, *ibid.*, **1**, p. 18 (Nikko).

* 本目録の配列は現行の分類体系に従った。また、学名は日本産甲虫目録15号(甲虫談話会, 1979) および原色日本甲虫図鑑II(保育社, 1985)に準拠したため、原記載時と異なっているものもある。

6. *Serica foobowana* SAWADA フウボビロウドコガネ
 SAWADA, 1937, *ibid.*, **1**, p. 20, fig. 3, pl. 4, fig. 9, pl. 5, fig. 2, pl. 6, fig. 6
 (Mt. Ohdaigahara).
7. *Serica nigrovariata* LEWIS クロホシビロウドコガネ
 var. *nigripennis* SAWADA, 1937, *ibid.*, **1**, p. 15, pl. 2, figs. 3a-b (Mt. Shirouma).
8. *Serica niitakana* SAWADA ニイタカビロウドコガネ
 SAWADA, 1939, *ibid.*, **3**, p. 49, text-figs. 1-2 (Mt. Niitaka, Formosa).
9. *Serica takagii* SAWADA ハラダロビロウドコガネ
 SAWADA, 1937, *ibid.*, **1**, p. 18 (as var. of *S. boops* WATERHOUSE) (Nebazawa, Oku-Nikko).
10. *Nipponoserica similis* (LEWIS) カバイロビロウドコガネ
 var. *daisensis* SAWADA, 1937, *ibid.*, **1**, p. 24, pl. 3, figs. 3a-c (*Serica*) (Mt. Hôki-daisen).
11. *Sericania aikyoi* SAWADA アイキョウチャイロコガネ
 SAWADA, 1955, Jour. Agri. Sci. Tokyo Nagyo Daigaku, **2**, p. 573, pl. 41, figs. 11, 13, 16 (Nidoage, Gunma Pref.).
12. *Sericania alternata* SAWADA ヒラタチャイロコガネ
 SAWADA, 1938, Nippon no Kôchû, **2**, pp. 15, 19, pl. 2, fig. 1, pl. 3, figs. 4, 5, pl. 4, fig. 3 (Kawai, Kami-Kitayama, Yamato).
13. *Sericania chikuzensis* SAWADA チクゼンチャイロコガネ
 SAWADA, 1938, *ibid.*, **2**, p. 70, figs. 1a-c (Mt. Wakasugi, Fukuoka Pref.).
14. *Sericania fulgida* NIIJIMA et KINOSHITA ツヤチャイロコガネ
 subsp. *lineata* SAWADA, 1939, *ibid.*, **3**, p. 48 (as var. of *S. fulgida* NIIJIMA et KINOSHITA) (Mt. Ohdaigahara).
15. *Sericania fulgida* NIIJIMA et KINOSHITA ツヤチャイロコガネ
 var. *testacea* SAWADA, 1938, Nippon no Kôchû, **2**, pp. 12, 21 (as *S. testacea* SAWADA) (Ôshimizu, Oku-Nikko).
16. *Sericania imadatei* SAWADA イマダテチャイロコガネ
 SAWADA, 1955, Jour. Agri. Sci. Tokyo Nogyo Daigaku, **2**, p. 569, pl. 40, figs. 11-14, pl. 41, figs. 5, 6 (Kasuga, Nara Pref.).
17. *Sericania kamiyai* SAWADA カミヤチャイロコガネ
 SAWADA, 1938, Nippon no Kôchû, **2**, pp. 16, 22, pl. 2, fig. 7, pl. 3, figs. 3, 7, pl. 4, fig. 7 (Ohdake in Mts. Hakkôda, Aomori Pref.).
18. *Sericania kirai* SAWADA キラチャイロコガネ
 SAWADA, 1938, *ibid.*, **2**, p. 29, figs. 2a-b (Mt. Hirano, Fukuoka Pref.).

19. *Sericania lewisi* ARROW ルイスチャイロコガネ
var. *yamamotoi* SAWADA, 1983, *ibid.*, **2**, pp. 13, 22 (Nebazawa, Oku-Nikko).
20. *Sericania matsushitai* SAWADA マツシタチャイロコガネ
SAWADA, 1955, *Jour. Agri. Sci. Tokyo Nogyo Daigaku*, **2**, p. 569, pl. 40, figs. 15, 16, pl. 41, figs. 7, 8, 15 (Gifu-park, Gifu Pref.).
21. *Sericania matsuyamana* SAWADA マツヤマチャイロコガネ
SAWADA, 1938, *Nippon no Kôchû*, **2**, p. 70, figs. 3 a-b (Matsuyama, Uda, Yamato).
22. *Sericania mimica* LEWIS ナエドコチャイロコガネ
queinquefoliata SAWADA, 1938, *ibid.*, **2**, pp. 16, 23, pl. 2, fig. 8, pl. 3, fig. 8, pl. 4, fig. 8, text fig. 3 (Oku-Tama).
takaoana SAWADA, 1938, *ibid.*, **2**, pp. 17, 24, pl. 2, fig. 9, pl. 3, fig. 9, pl. 4, fig. 9 (Mt. Takao near Tokyo).
23. *Sericania ohirai* SAWADA オオヒラチャイロコガネ
SAWADA, 1960, *Jour. Agri. Sci. Tokyo Nogyo Daigaku*, **6**, p. 10, figs. 1-3, pl. 1, figs. 1-6 (Mt. Hongû-san, Aichi Pref.).
24. *Sericania ohtakei* SAWADA オオタケチャイロコガネ
SAWADA, 1955, *ibid.*, **2**, p. 565, pl. 40, figs. 6-10, pl. 41, figs. 3, 4 (Mt. Takao near Tokyo).
25. *Sericania tohokuensis* SAWADA トウホクチャイロコガネ
SAWADA, 1955, *ibid.*, **2**, p. 571, pl. 40, figs. 17, 18, pl. 41, figs. 9, 10, 12 (Kakudate, Akita Pref.).
26. *Sericania yamauchii* SAWADA ヤマウチチャイロコガネ
SAWADA, 1938, *Nippon no Kôchû*, **2**, pp. 12, 18, fig. 1, pl. 3, figs. 1-4, pl. 4, figs. 1, 2 (Mt. Hiko-san, Kyushu).
27. *Apogonia ishiharai* SAWADA イシハラカンショコガネ
SAWADA, 1940, *Jour. Agri. Sci. Tokyo Nogyo Daigaku*, **1**, p. 272, pl. 10, fig. 4 (Ashizuri-misaki, Kochi Pref.).
28. *Apogonia kamiyai* SAWADA カミヤカンショコガネ
SAWADA, 1940, *ibid.*, **1**, p. 276, pl. 10, fig. 10 (Sijiûkei, Formosa).
29. *Apogonia shibuyai* SAWADA シブヤカンショコガネ
SAWADA, 1950, *ibid.*, **2**, pp. 264, 299, pl. 27, fig. 9, pl. 28, fig. 11 (Naze, Amami-Ôshima).
30. *Apogonia takasagoensis* SAWADA
SAWADA, 1940, *ibid.*, **1**, p. 271, pl. 10, figs. 1, 14 (Suisya, Formosa).
31. *Apogonia tanigawaensis* SAWADA

- SAWADA, 1940, *ibid.*, **1**, p. 272, pl. 10, figs. 2, 12 (Tanigawa-dake, Gunma Pref.).
32. *Holotrichia loochooana* (SAWADA) リュウキュウクロコガネ
SAWADA, 1950, Jour. Agri. Sci. Tokyo Nogyo Daigaku, **2**, pp. 265, 301, pl. 26, fig. 14 (*Lachnosterna*) (Ishigaki-jima, Ryukyu).
33. *Ohkubous ferrieri* (NONFRIED) ヨツバコガネ
Ohkubous quadridentatus SAWADA, 1938, Nippon no Kôchû, **2**, p. 74, pl. 9 (Shôwa-mura, Tosa).
34. *Blitopertha ohdaiensis* (SAWADA) オオダイセマダラコガネ
SAWADA, 1941, *ibid.*, **4**, p. 49, pl. 2, figs. 5, 20, pl. 3, fig. 1, pl. 5, fig. 7 (*Phallopertha*) (Mt. Ohdaigahara).
35. *Blithopertha suzukii* SAWADA
SAWADA, 1943, Trans. Kansai ent. Soc., **13**(2), p. 2 (*Phyllopertha*) (Takizaki, C. Formosa).
36. *Blitopertha takasagoensis* SAWADA タイワンムネモンコガネ
SAWADA, 1941, Nippon no Kôchû, **4**, p. 51, pl. 2, figs. 7-11, 22, pl. 3, fig. 6 (*Phyllopertha*) (Baibara near Hori, Formosa).
37. *Blitopertha tarowana* SAWADA タロワンコガネ
SAWADA, 1941, *ibid.*, **4**, p. 51, pl. 2, figs. 10, 21, pl. 3, fig. 5, pl. 5, fig. 8 (*Phyllopertha*) (Tarowan, Formosa).
38. *Mimela fusania* BATES
subsp. *taiwana* SAWADA, Trans. Kansai ent. Soc., **13**(2), p. 2 (Chokakurai, Daibu, Formosa).
39. *Mimela ishigakiensis* (SAWADA) イシガキコガネ
SAWADA, 1950, Jour. Agri. Sci. Tokyo Nogyo Daigaku, **2**, pp. 272, 302, text-fig. 1 (*Anomala*) (Ishigaki-jima, Ryukyu).
40. *Mimela taiheizana* SAWADA
SAWADA, 1943, Trans. Kansai ent. Soc., **13**(2), p. 1 (Mt. Taihei, N. Formosa).
41. *Mimela takemurai* SAWADA タケムラスジコガネ
SAWADA, 1942, *ibid.*, **12** (1), p. 38, figs. a, c, e, f (Mt. Takatiho, Kyushu).
42. *Anomala albopilosa* (HOPE) アオドウガネ
subsp. *yashiroi* SAWADA, 1950, Jour. Agri. Sci. Tokyo Nogyo Daigaku, **2**, pp. 279, 307, pl. 26, fig. 15. (Naha in Okinawa-hontô, Ryukyu) (オキナワアオドウガネ)
43. *Anomala esakii* SAWADA エサキドウガネ
SAWADA, 1950, *ibid.*, **2**, pp. 273, 303, pl. 25, figs. 7-9, pl. 26, figs. 1-6, pl. 27, fig. 3. (Yonakuni-jima, Ryukyu)

44. *Anomala matsumurai* SAWADA リュウキュウスジコガネ
SAWADA, 1950, *ibid.*, **2**, pp. 277, 305, pl. 26, figs. 11-13, pl. 27, fig. 6 (Ishigaki-jima, Ryukyu).
45. *Anomala osakana* SAWADA オオサカスジコガネ
SAWADA, 1942, *Trans. Kansai ent. Soc.*, **12**(1), p. 40 (Zyôhoku-kôen, Osaka).
46. *Anomala viridana* (KOLBE) ヤマトアオドウガネ
subsp. *izuensis* SAWADA, 1942, *ibid.*, **12**(1), p. 45, pl. 9, figs. 2, 6, 11 (as var. of *A. viridana* (KOLBE)) (Mitsune-mura in Hachijo-jima, Izu Islands). (イズアオドウガネ)
47. *Paratrachius vittatus* SAWADA アカスジトラハナムグリ
SAWADA, 1939, *Nippon no Kôchû*, **3**, p. 44, pl. 6, figs. c, d, text-fig. 5 (Bandai near Musha, Formosa).
48. *Trichius succinctus* (PALLAS) ヒメトラハナムグリ
formosanus SAWADA, 1943, *Trans. Kansai ent. Soc.*, **13**(2), p. 6, fig. 6 (Bandaisha in Taichû, Formosa).
49. *Trichius succinctus* (PALLAS) ヒメトラハナムグリ
subsp. *shirozui* SAWADA, 1944, *ibid.*, **14**(2), p. 72 (new name for *T. succinctus formosanus* SAWADA, 1943) (Bandaisha in Taichû, Formosa). (タイワンヒメトラハナムグリ)
50. *Trichius succinctus* (PALLAS) ヒメトラハナムグリ
subsp. *hananoi* SAWADA, 1943, *ibid.*, **13**(2), p. 6, fig. a (Yamatosyôzan, Kwanton Prov., S. China).
51. *Glycyphana tonkinensis* MOSER ホソコハナムグリ
gracilis SAWADA, 1942, *Zool. Mag. Tokyo*, **54**, p. 240 (Kuraru near Kôshun, Formosa).
52. *Glycyphana tonkinensis* MOSER タイワンホソコハナムグリ
subsp. *viridis* SAWADA, 1942, *ibid.*, **54**, p. 241 (as subsp. of *G. gracilis* SAWADA) (Kasuga, Nara Pref.).
53. *Valgus koreanus* SAWADA
SAWADA, 1944, *Trans. Kansai ent. Soc.*, **14**(1), p. 12, fig. (Syôyô-zan near Keijô, Korea).
54. *Neovalgus pictus* (HOPE) オオヒラタハナムグリ
subsp. *shikokuensis* SAWADA, 1941, *Nippon no Kôchû*, **4**, pp. 2, 7 (*Valgus*) (Ishizuchi, Kuroson, Omogokei, Shikoku) (シコクオオヒラタハナムグリ)
55. *Neovalgus taiwanus* (SAWADA) タイワンオオヒラタハナムグリ

- SAWADA, 1941, *ibid.*, 4, pp. 2, 6, pl. 1, fig. 7 (as subsp. of *Valgus pictus* (HOPE))
(Kôshun, Mt. Rara, Bandai, Kuraru, Formosa).
56. *Charitovalgus banzai* SAWADA
SAWADA, 1941, *ibid.*, 4, pp. 3, 8, pl. 1, fig. 4, text-fig. 1 (Inago near Musha, Formosa).
57. *Charitovalgus formosanus* SAWADA タイワントゲヒラタハナムグリ
SAWADA, 1939, *ibid.*, 3, p. 42, pl. 6, fig. b, text-figs. 3, 4 (Bandai near Musha, Formosa).
58. *Dasyvalgus inouei* SAWADA
SAWADA, 1939, Trans. Kansai ent. Soc., (8), p. 88, pl. 10, fig. 6, text-fig. 2 (Mt. Rara, N. Formosa).
59. *Hybovalgus kamiyai* (SAWADA)
SAWADA, 1941, Nippon no Kôchû, 4, pp. 4, 11, pl. 1, fig. 8, text-fig. 2 (*Dasyvalgus*) (Tattaka, Formosa).
60. *Hybovalgus major* SAWADA
SAWADA, 1939, Trans. Kansai ent. Soc., (8), p. 84, pl. 10, fig. 3, text-fig. 1 (Kayhara, N. Formosa).
61. *Hybovalgus takasagoensis* SAWADA タカサゴヒラタハナムグリ
SAWADA, 1941, Nippon no Kôchû, 4, pp. 5, 12, pl. 1, fig. 6, text-fig. 2 (Baiboku near Musha, Formosa).
62. *Nipponovalgus yonakuniensis* SAWADA ヨナグニヒラタハナムグリ
SAWADA, 1941, *ibid.*, 4, pp. 4, 10, pl. 1, fig. 5 (Yonakuni-jima, Ryukyu).
63. *Rhomborrhina polita* WATERHOUSE クロカナブン
subsp. *taiwana* SAWADA, 1949, Trans. Kansai ent. Soc., 14(2): 70 (Hori, Formosa).
(タイワングロカナブン)

(3) 澤田玄正教授による日本からの新記録種

Species Newly Recorded from Japan by Professor H. SAWADA

1. *Ectinohoplia rufipes* (MOTSCHULSKY) カバイロアシナガコガネ
SAWADA, 1937, Nippon no Kôchû, 1, p. 33 (Kanbe-mura, Uda-gun, Nara Pref.).
2. *Hexataenius protensus* FAIRMAIRE ヒゲナガクロコガネ
SAWADA, 1960, Jour. Agri. Sci. Tokyo Nogyo Daigaku, 5, p. 2, pl. 9, figs. 1-5, pl. 10, figs. 1-6, pl. 11, figs. 1-12 (Mie-machi in Oita Pref., Mt. Hiko-san in Fukuoka Pref.).

あ　と　が　き

澤田玄正先生の略歴を見ればすぐにも解ることですが、兵役の期間を除いても46年の長きにわたって農大に在職され、大学経営、学生教育、そしてご自身のライフワークであるコガネムシ類の研究等、実に精力的な活動を展開されてきました。また、対外的にも日本昆虫学会や日本食品衛生学会等の役員も歴任されて、その活動範囲は多岐にわたっています。このことは澤田先生の優れた資質とたゆまざる研鑽の結果にほかなりませんが、それと同時に献身的な奥様の内助の功を思わずにはいられません。

澤田先生の長い在職期間を通して、また広範囲な分野において、多数の人達が先生のご声咳に接し、多くの薫陶を受けてきました。そこで本年、澤田先生が「古稀」を迎えられるに当り、当初私達は那樣な多くの人達と一緒に祝いをしたいと考えておりました。しかしながら、時間的にまた経済的に他の人達に負担をかけてはいけないという澤田先生の強いご指示に従い、古稀のお祝いはごく内輪の人達だけで行うこととし、その一つとしてこの小冊誌の発刊を企画致しました。そして澤田先生には東京農大と昆研との係わり、特に農大における昆虫学および昆研に関する事柄について備忘録風に書き記していただきました。これらの内容は今では記憶されている方も少なく、このままでは過去の出来事として埋もれてしまいますが、ここに書き記されることによって関係者ばかりでなく、昆虫学研究室にとっても貴重な記録となりました。末筆になりましたが、ご多忙の折にも拘らず貴重な時間をさいてご執筆いただいた澤田先生にお礼申し上げるとともに、先生の今後ますますのご健勝を心より祈っております。

(編集担当 渡辺泰明記)